

設立趣旨

アディクション（依存症）看護学会の設立を目指して

準備委員会のお誘い

近年、不登校や閉じこもり、ドメスティック・バイオレンスや児童虐待、摂食行動の異常やリストカットなど、従来の精神科看護ではほとんど触れられていないところの問題が大きくクローズアップされてきています。地域で働く保健婦は毎日のように虐待の心配されるケースで走り回っていますし、救急外来では多くの看護婦が明らかに虐待の跡のあるケースを見えています。それだけでなく、小児科病棟では明らかに親子関係に問題のある児童を目の前にして、母親をはじめとする家族とどのように接したらよいかで悩んでいます。産科では飛び込み出産や低年齢の母親の元で産まれた赤ちゃんの行く末を案じていながら、自分の無力感を訴える看護職も多いと思われます。全国では100万人を越える看護職が働いていますが、その多くは現代のこころの問題に対処できずに悩んでいるのではないのでしょうか？

精神看護学が成人看護学から独立してまだ間がないことや、今まで精神分裂病や、躁鬱病の看護しか経験のない教員がほとんどであることもあって、現代のこころの問題にどういった精神科看護が必要かを教えている教育現場も皆無に近いと思われます。

現在、摂食障害や虐待、閉じこもりなどは大きくアディクション（嗜癖行動）として理解されるようになってきました。そして一部の精神科クリニックではアルコール依存症だけでなく、薬物依存症や、摂食障害、閉じこもりなどの家族を対象に家族教室などで集団ケアをするようになってきていますが、そこでは看護職よりも臨床心理士やケースワーカーが取り組んでいることが多いようです。

アディクション問題に看護はいかに取り組むべきか、バーンアウトせずリストカットの患者さんにつきあうにはどうしたらよいかなどを一緒に考えませんか？

看護職がアディクション問題に対して臨床実践と研究活動を促進するためにはアディクション（依存症）看護学会を設立する必要があると考えようになりました。そこで志を同じくする人々に語りかけてアディクション（依存症）看護学会の作りたいと考えています。賛同いただける方、興味を持つ方のご入会を心より期待しています。

平成14年4月

東京都立保健科学大学 安田美弥子